

関学在学中の思い出

鎌田 栄一
(1984年度B)

関学旧英文学科田中実ゼミを1985年3月に卒業しました鎌田栄一です。1985年4月より大阪府立高校教員に就職し、2013年4月より布施高校に勤務しています。

2014年9月20日ホテル阪急インターナショナルでの英米文学英語学専修(旧英文学科)創設80周年記念式典にも参加しました。大井浩二先生の記念講演の途中から入場し、次の記念座談会は、友人の山本圭子さんが司会で、笹山先生ほかの先生方のお元気な姿を拝見しました。次の記念パーティでは、何人か、私が関学在学中に教わった先生もいらしたのですが、私の方は、当日の参加者では、山本圭子さんしか知り合いがない孤独な参加者でしたので、結局ほかの先生方に話しかけられずに閉会時の記念写真撮影におさまりました。

2014年に英米文学英語学専修80周年なら私が1985年3月の卒業ですから30年前の1984年は、きりのいい50周年だと思うのですが、私の在学中は特に式典の記憶はありません。

さて、1981年、私は関学文学部英文学科に入学しました。当時は基礎演習(基礎ゼミ)や英語や第2外国語(英文科は英語が第1外国語で第2外国語はフランス語かドイツ語)のいずれも文学部生が五十音順でクラス分けをされており、私は鎌田ですから、姓がオヤカで始まる名前の人(小野とか河合とか)と同じクラスによくまりました。私の基礎ゼミの担当は美学科の磯先生でしたがゼミの内容はあまりよく覚えていません。

キリスト教学の担当は、田淵結先生でした。私はキリスト教徒ではないので、キリスト教学を履修しているときが今まででいちばん聖書を読んだよう

に思います。

1年生のときの英文学科生だけの科目は、英語Ⅰ丙で、担当は花岡秀先生。花岡先生は「罫線の用紙は、よくレポート用紙と呼ばれるが、レポート用紙ではない」とおっしゃっていたのを覚えています。

2年～4年の時に履修した科目は、どの科目を何年の時に履修したか記憶が曖昧ですが田中ゼミの同期の友人、山本圭子さんやその他数人のゼミの仲間と、よく連れ立って授業に繰り出していました。

2年の英語Ⅱ甲は、他大学の先生が担当でテネシー・ウイリアムズの「夏と煙」を読み、笹山先生にも何か、**well-made play** を講読で担当してもらいました。作品はノエル・カワードの *Nude with Violin* だったのでしょうか？作品内容はよく覚えていないのですが、笹山先生が、ところどころ英文や単語の日本語訳を学生に質問され、学生の答えが間違っていると「そうじゃないだろう」と言われたのを思い出します。

私は3-4年でのゼミに英語学の田中実ゼミを選びましたが、私がゼミを選ぶ年、英語学は、伊藤先生か田中先生からの究極の選択でした。私と同期の英文科の男子学生は、中学高校の英語教職が希望で英語学のゼミを選んだ人が多く、中でも田中ゼミは男子も女子も多い大所帯でした。当時、関学英文科はほかに、英語学の北山先生、英米演劇の中條先生、笹山先生、英文学の河村先生、米文学の永井先生、嶋先生、桂田先生、大井先生、ファンタジーの杉山洋子先生、詩のルームズ先生らがおられました。一方、文学部では、実践英語的な科目は開講していなかったので、社会学部・西尾先生の時事英語、経済学部・巻下先生の英語Ⅲ、商学部の英文貿易通信を履修しました。巻下先生の「日本語から見た英語表現」の研究はおもしろく、英文科の先生になって英文科のゼミをお持ちになればいいのにと叶わないことを考えました。

4年の卒業論文は、今の若い人は知らない、手動の英文タイプライターで打ちました。今の若い人は、中学や高校からパソコンやキー配列やパソコンに入っている **Microsoft Word** に慣れているのですが、当時はパソコン

や今は絶滅に近いワープロ専用機さえ普及する前で、私などはタイプライターのキー配列に慣れることから始まり、セットした用紙に一字ずつ印字するタイプライターでの卒論は今より余計に時間がかかりました。さらに私はすることが遅いので、卒論も締切りぎりぎりに提出し、無事卒業し、高校教員になれましたが、従来の訳読式の授業をなかなか抜け出せず、今の若い教員の方が、新しいスキルを持っているようで、少しあせります。

数年前、狭山高校勤務の時、関学大の入試説明会が関学上ヶ原であり、希望者は、キャンパスツアーをしたのですが、国際学部が新設される一方、私たちが在学中によく授業のあった第一別館などはなくなっていました。

今後も、関学の英米文学英語学専修がますます発展することを祈念いたします。

